

## 「病害虫情報」のホームページ掲載

今般、植物防疫所ホームページは、農林水産省のホームページサーバに統合されました。これに伴い、アドレスが変更となり、デザインをリニューアルしました。

本誌も行政のペーパーレス化推進及び関係者からの要望を踏まえ、本誌82号からホームページに掲載しています。

本誌をホームページでご覧いただくためには、トップページローカルナビ（右側のメニュー）の「植物防疫所案内」から入ります。「広報資料・刊行物」の『病害虫情報』をクリックすると、本誌の各号の記事一覧が表示され、選択することにより記事内容がPDFで閲覧することができます。

今後とも業務等の参考資料として、植物防疫所「病害虫情報」をご覧いただき

ますようお願いいたします。

(植物防疫所ホームページアドレス <http://www.maff.go.jp/pps/>)



## イタリアにおけるミカントゲコナジラミの発見

2008年4月オレンジの小枝に寄生したミカントゲコナジラミ (*Aleurocanthus spiniferus*) がイタリア南東部のLecce県で発見された。イタリアにおける初発見であるが、ヨーロッパにおける初発見でもある。

本種はカメムシ目コナジラミ科に属し、わが国本州以南の各地及びインド、中国、東南アジアに分布する。カンキツ類、ブドウ、カキ、ナシ、ピワ等の果樹類や、多くの庭木類に寄生する。被害は成虫と幼虫による吸汁害であるが、発生密度が高いと葉が内側に巻いて変形する。また、幼虫及び蛹が刺毛の先端から甘露を分泌し、これによってすす病を併発し、葉や果実を汚染して商品価値を損なわせる。

雌成虫の体長は約1.3mmで、雄はやや小さく、体は橙黄色で白粉で覆われている。前翅は紫褐色で不整形の白紋がある。短い柄のある長さ約0.2mmの曲玉状の卵を葉の裏に産み付ける。ふ化幼虫は定着した後、3齢を経て蛹となる。蛹殻は長さ約1mm、光沢のある黒色で周囲に白色の口質物を分泌する。周囲と背面には

多数の刺毛がある。わが国では年4回の発生で、3齢幼虫や蛹で越冬する。風通しの悪い園地や樹での発生が多い。主に寄生した植物の移動に伴って分布を拡大する。

イタリアでは本種の発見を受けて調査が行われ、その結果、Lecce県のSupersano地域にはすでに広く分布していることが判明した。地元のカンキツ生産者の話では、2年前から発生していたが、カイガラムシと思い、見過ごしてきたとのことであった。本種はヨーロッパ地中海地域植物防疫機関が定める検疫病害虫のリストに含まれており、その侵入が警戒されていたところであったが、イタリアにおいて侵入、定着し、まん延していることが明らかとなった。

参考 [http://www.eppo.org/QUARANTINE/aleurocanthus\\_spiniferus\\_IT/first\\_record.htm](http://www.eppo.org/QUARANTINE/aleurocanthus_spiniferus_IT/first_record.htm)

発行所 横浜植物防疫所

発行人 川口 嘉久

編集責任者 金田 昌士

掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>